立命館守山中学校・高等学校　2021年度　学校目標　年度末報告シート

教育目標	■教育目的：Gqme Changer（新たな価値と希望を生みだす人）の育成 ■教育目標：4Cs ①Critical Thinking（批判的思考スキル） ②Creative Thinking（創造的思考スキル） ③Communication（コミュニケーションスキル） ④Collaboration（コラボレーションスキル）	中期目標	①カリキュラム改革（文理融合HAS-STEM、基礎-探究50%、学びの個別化・協同化・プロジェクト化・社会実装化、オンラインハイブリッド化、学習評価見直し、LMS開発、学期制・担任制検討） ②学科・コース制の再編（中学FTCあり方検討、高校学科・コース制再編） ③生徒自治・課外活動（自治活動活性化、倫理・マナー教育、ルールの見直し、要支援生徒対応） ④教員組織の再編・教員の役割（教員の役割変化、マインドセット改革、探究指導力養成） ⑤学ぶ空間のあり方の再構築（教室オンラインハイブリッド化、ラーニングコモンズ化、教員生徒間コミュニケーション促進環境改善、什器更新）

区分	A.課題(上位目標)		B.目標（中位目標）		C.達成目標（当年度目標）		D.自己評価	E.具体的施策（どのような方法で）
教学課題	Ⅰ	高い学力と主体的に学ぶ姿勢をもった生徒の育成	1	基礎・探究の両面に渡る学力向上	(1)	資格試験や模試等外部評価に基づく基礎学力の向上	△	①学力推移調査、スタサポ、進研模試の実施・結果分析 ②GPSアカデミックの実施・結果分析 ③共創探究科を中心としたパフォーマンス評価法の開発 ④新しい「RM-Style」授業の定式化と授業研究の推進
					(2)	パフォーマンス評価等に基づく探究学力の向上	◎	
					(3)	個別化・協同化プロセスの授業への導入	○	
			2	「学びを止めない」ためのICT・AIの積極活用	(1)	AIアプリ活用による自宅学習時間の増加	○	①Classiによる学習時間記録の習慣化 ②理数科目を中心とした中高での「atama+」の有効活用 ③臨機応変にオンライン授業に切り替える体制の確立 ④全教室へのハイブリッドシステム導入
					(2)	ICT積極活用による学びのモチベーション向上	◎	
					(3)	対面・オンラインによるハイブリッド環境の実現	◎	
			3	キャリア教育と結びつけた進路実現	(1)	社会とつながるキャリア意識の醸成	◎	①一線で活躍する社会人によるキャリア講演会の開催 ②RU・APUとの中高大院連携企画の遂行 ③学びと成長にかかわる自己認識を測定する方策の検討 ④FTコース独自の土曜日・長期休暇の有効活用策の実施
					(2)	中高大院連携による進路意識深化、学部選択実現	◎	
					(3)	FTコースを中心とした難関他大学進学の達成	○	
	Ⅱ	特色ある教育プログラム（サイエンス・国際・アントレプレナーシップ）の推進	1	SSHを軸としたサイエンス教育の充実	(1)	サイエンスAPを軸とした理系課題研究の質的向上	◎	①サイエンスAP充実のためのBKC理工系学部・大学院との協議 ②サイエンスに関する中高生連携活動の具体化 ③AI教材の活用による理科・数学の基礎学力向上 ④理系の探究学力測定方法の開発
					(2)	SSH中間評価をふまえた事業内容の改善	○	
					(3)	学内推薦における理系進学者増	○	
			2	多彩な異文化環境創出による国際教育の充実	(1)	海外研修・派遣の追求と代替プログラムの準備	◎	①旅行会社・危機管理会社との連携による確実な準備遂行 ②オンラインプログラムへの参加生徒の拡大促進 ③カナダ・ダブルディプロマへの確実な生徒参加促進 ④海外志向生徒への個別カウンセリング実施
					(2)	オンラインを活用した多様な異文化理解体験の保障	◎	
					(3)	海外高校・大学との共同プログラムの実施	◎	
			3	SDGsとリンクしたアントレプレナーシップ教育の充実	(1)	グローバルAPを通じたマイプロジェクトの質的向上	◎	①立命館社会起業家育成プラットフォームとの連携推進 ②探究授業を通じたビジネスプランコンテストへの応募促進 ③課外活動として社会課題解決にとりくむ生徒のサポート ④大学サスティナブルウィーク実行委員会との連携
					(2)	共創探究科を中心としたSDGsを取り入れた授業展開	◎	
					(3)	各種ビジネスプランコンテストへの応募・入賞者増	◎	
	Ⅲ	自立し社会に貢献できる生徒の育成	1	生徒の主体性・自治能力を伸ばすしくみの実現	(1)	ニューノーマルの視点による学校行事の創出	○	①生徒会執行部内でのブレストを通じたアイデア創出支援 ②生徒会・校長懇談会開催による定例化の協議 ③リーダー研修会開催による生徒の学び支援 ④他校生徒会との連携による視野の拡大促進
					(2)	生徒会・校長定期協議会、リーダー研修会等の開催	△	
					(3)	生徒参加でルールを見直す活動の展開	○	
			2	いじめを許さない相互承認の気風確立	(1)	いじめやコロナ差別等身近な人権擁護意識の涵養	◎	①いじめ防止ガイドラインの策定と教員間理解の深化 ②生徒部による挨拶指導プログラムの開発 ③教員のホスピタリティマインドの促進 ④コロナ禍における服装緩和の継続
					(2)	挨拶やマナー等他者をリスペクトする意識の涵養	○	
					(3)	制服ジェンダーレス化の実施	◎	
			3	クラブ・社会貢献等自主活動の活性化	(1)	民主的かつ生徒の主体性を伸ばすクラブ運営の実現	○	①クラブ改革の先進実践例からの学びの教員間共有 ②ATC連携による怪我予防、練習効率化の促進 ③クラブ活動運営方針の徹底 ④校外活動で活躍する生徒の情報発信
					(2)	クラブ運営における休養日設定、練習効率化の実現	○	
					(3)	校外ボランティアや社会貢献活動への生徒参加促進	◎	
管理運営課題	Ⅰ	自己研鑽および組織的支援による教員の授業力・教育力・管理運営力総体の向上	1	「教えない」マインドセット改革と探究指導力の向上	(1)	ブレンディッド・ラーニング（BL）の試行・研究	△	①理数教科中心にAI教材活用と合わせたBLの研究 ②「教えない」授業についての教員研修会実施 ③探究アドバイザーによる授業見学・助言 ④授業アンケートの年間2回実施
					(2)	教員研修会の開催や探究アドバイザーによる支援	◎	
					(3)	授業アンケートによる振り返りと授業改善の遂行	○	
			2	生徒支援マインドと指導力の向上	(1)	いじめの早期掌握と情報共有化、組織的対応の徹底	◎	①いじめ対策委員会の中高分離・独立開催 ②定期的なアンケートの実施 ③HyperQ-Uの積極活用と研修会の開催 ④スクールソーシャルワーカーの新規配置
					(2)	要支援生徒に対する指導力の向上	◎	
					(3)	教員と専門職との連携強化	◎	
			3	リスクマネジメント力の強化	(1)	コロナ感染防止対策のいっそうの徹底	○	①これまでのコロナ感染防止策の継続実施 ②配布物における個人情報文書の取り扱いルールの徹底 ③オンラインによる避難経路の生徒への確認 ④校内避難訓練の実施
					(2)	個人情報保護対策の強化	◎	
					(3)	校内での避難誘導スキルの習熟	○	
	Ⅱ	働き方改革の推進と教員組織の連携強化	1	勤務管理を通じた計画的な業務遂行	(1)	時間管理と計画的な業務遂行の習慣化	○	①勤怠管理の習慣化のための支援 ②教員ヒアリングを通じた個人の働き方の見直し ③時間外が超過気味の教員に対する個人面談の実施 ④労働者代表との定期協議の実施
					(2)	時間外勤務の削減	◎	
					(3)	個別教員に対する執行部の支援・指導の充実	○	
			2	業務改善の検証・実行	(1)	学校全体・分掌単位の業務改善策の確実な遂行	○	①分掌方針への業務改善項目の明記 ②分掌単位での業務改善状況の点検実施 ③スクールサポートスタッフ、クラブ指導員との連携促進 ④先進事例の共有と教訓化
					(2)	外部人材の積極的活用と効果検証	◎	
					(3)	業務改善状況の定期的な検証と改善策の実行	◎	
			3	教員組織のチーム力強化	(1)	チーム担任制の検証・改善と教訓化	○	①チーム担任制運用方法の柔軟な対応 ②情報共有におけるICTの積極活用 ③WEBアンケート等の手法も交えた意見集約の実施 ④年間2回以上の執行部による教員個人面談の実施
					(2)	率直に議論できる自由な気風と民主的運営の確立	○	
					(3)	執行部と教員による面談機会の充実	○	
	Ⅲ	保護者・同窓生、地域・行政との連携、生徒募集の成功	1	保護者・同窓生・支援関係者との連携	(1)	PTA役員との懇談を通じた協力関係の構築	◎	①PTA役員と執行部との定期的な懇談会の開催 ②社会で活躍する卒業生によるキャリア教育支援の検討 ③保護者アンケートのWEBによる実施 ④教育振興会役員、学校評議員との懇談の実施
					(2)	早苗会を軸とした卒業生ネットワークの拡大	○	
					(3)	保護者アンケートの分析と教訓化	◎	
			2	地域・行政との連携	(1)	守山市長・市関係者との起業家教育連携	◎	①市長をはじめ守山市関係者との懇談の継続 ②地域振興やSDGsをテーマとした地元関係団体との協議 ③生徒の探究活動を通じた地元関係団体との協議 ④守山市文化体育振興事業団との協議
					(2)	守山市・滋賀県所在の企業・団体との教育連携促進	◎	
					(3)	文化スポーツ拠点化構想に向けた関係団体連携促進	○	
			3	生徒募集の成功	(1)	入学定員の確保と高意欲層の増加	◎	①学校教育の魅力を効果的に打ち出す広報戦略の立案 ②オンラインを活用した入試相談機会の設定 ③滋賀県私学全体の活性化を念頭においた活動の展開 ④入試日程設定と執行の効率化におけるDX積極活用
					(2)	入試日程の見直しと広報宣伝の魅力化	○	
					(3)	DX活用による入試執行の効率化	◎	
	Ⅳ	2030将来構想マスタープランの策定	1	2022年度実施課題の具体化	(1)	新教育課程の策定	◎	①教育システムWGの設置、検討促進 ②新教育課程の策定、現教育課程の修正 ③教育課程見直しに伴う新校時表の策定 ④学習評価見直し方針の各教科での審議促進
					(2)	新校時表の策定	◎	
					(3)	学習評価見直し方針の策定	○	
			2	中期的課題の検討	(1)	新新教育課程、学期制、高校単位制等の調査・検討	○	①教育システムWGでの検討促進 ②クラブ政策WGでの検討促進 ③教育政策委員会定例化による検討のスピードアップ ④一貫教育部・各附属校との協議促進
					(2)	クラブ活動の位置付け・あり方に関する検討	○	
					(3)	コース制見直し、高校オンラインコース設置の検討	△	
			3	施設設備	(1)	法人将来構想答申に基づく当面の施設改善策具体化	○	①環境整備WGでの仕様具体化 ②法人財務部との連携 ③夏期休暇中にハイブリッド化工事実施 ④中期的改修計画の検討促進
					(2)	全教室の対面・オンラインハイブリッド化の実行	◎	
					(3)	ラーニングコモンズ化改修の先行実施	△	

達成状況	１．高い学力と主体的に学ぶ姿勢の育成 （１）コロナ禍での学びの保障（オンライン授業17日間）、指導や環境整備への評価（保護者アンケートでの高評価の維持） ・Webカメラ設置によるオンライン授業の質的向上（上記17日間中、15日間をハイブリッド授業）・学校行事・課外活動が活発な学校としての期待が生徒・保護者に高い。今後は1万人集客した文化祭をはじめとする体験的行事や活動の復活が大きな課題。・国公立大学進学　３年ぶりに東京大学（文Ⅲ）現役合格（阪大２、神戸１、名古屋１、滋賀大医２） （２）英語上位層の増加 ・中学準2級以上の増加（準2級:51→62、2級:7→12、準１級:0→１）・高校TOEFLスコアの回復傾向、500以上の上位層増加 ２．特色ある教育プログラム（SSH・国際・探究）の充実 （１）探究・社会実装型学習の高度化と成果創出　・「共創探究科」会議の定期開催　・「グローバルAP」「ユネスコ委員会」探究活動の高い成果と評価　・「グローバルAP」授業へのRIMIX・大学教員・教学部の参画・支援 ・「グローバルAP」成果発表会、大学教学部との「FDシンポ」開催　＝総長ピッチ・チャレンジ 総長賞グランプリ（高校生初・３年連続出場） （２）オンラインを活用したグローバル教育の高度化　・オンラインの枠を超えた体験型海外交流プログラム（年間400名超参加）　・海外留学・海外大学進学カウンセリング（年間100名超） ・Webを活用した国際部情報発信（Web発信57回、HP更新31回）・「国際的な取り組みが充実」に対する高評価（保護者アンケート：79.4%） （３）SSH中間評価結果への対応・課題改善　・BKC学部・院とのカリキュラム連携強化（探究基礎科目の増加）　・サイエンスAP（課題研究の指導）に対する学部教員指導の充実　・新たなルーブリック評価法の開発・運用（評価目標の可視化）理系進学者2%増 ３．自ら考え・行動できる生徒の育成 （１）　自主活動・課外活動における生徒の活躍　・コロナ制限下における新たな自主活動の芽生え（中体育祭・高文化祭）　・学校・生徒・保護者三者連携による中学「携帯電話自由化」運動 中高クラブ活動の成果　従来より全国大会出場経験のあるクラブに加え、中学女子陸上、高校硬式テニス、将棋部が全国大会出場を果たした。また、硬式野球は春夏の県大会準優勝、男子サッカー、バスケット、駅伝においてもベスト４に進出するなどコロナ禍でも自主性をよく発揮し、大きな躍進がみられた。 ４．教員の資質や指導力向上を目指す取組 （１）　教員集団の組織力・チーム力の向上の取組展開　・外部専門家によるオンライン研修会（一部対面）の開催（６回）　・生徒状況や課題に応じた「チーム担任制」の柔軟な運用 ５．働きがいのある職場環境づくり （１）　働き方改革の推進と教育の質的向上　・働き方改革に対する意識の向上（超過勤務時間平均：８０時間/目標１０８時間） （２）高負荷の業務に対するサポート体制について（大人定数として、教員業務の精選化）　・長期休暇における勤務カレンダーの見直し　・クラブ活動改革の具体化（外部委託・活動時間の再整理）・専門職やサポートスタッフなどの拡充 ６．生徒が安心・安全に学ぶことができる環境づくり （１）課題として 組織で取り組むストレスマネジメント　・新型コロナによる体力低下（怪我416→740・病気591→1554来室数増）　・生徒ストレスへの理解（軽度うつ症状、友人・家庭問題、自己肯定感の低下など）、早期発見・情報共有・組織的対応　・「教職員に気軽に相談できている」（保護者アンケート）の低さ(61.1%) （２）リスクマネジメント力の強化　・「新型コロナウイルス感染拡大予防」への情報共有・適切な対応　・「いじめ問題」「個人情報保護」「ハラスメント」悉皆研修の充実　・スクールソーシャルワーカー（SSW）配置、カウンセリングルーム改修　・中高別「いじめ対策委員会」開催による情報共有・対応の充実　・「いじめ基本方針」改訂、「教職員の服務ガイドライン」策定 ７．地域・社会から信頼される学校づくり
改善策	（１）コロナ禍における学びを止めないインフラは整備済みである。オンキャンパスならではの正課課外を問わない体験的な学びを吟味して再開させること。 （２）探究的な学びをさらに高度化するために、基礎学力養成に個別最適化学習を活用するしくみ・指導方法の開発。 （３）優れた教育活動の発信力を高める。オンラインを活用したタイムリーな発信とともに、編集された上質な情報を受け手の立場から検討する。 （４）学校の将来構想第1次アクションプランに続き、第2次アクションプランを次年度前半期には策定するべく、検討をすみやかに行うこと。

学校関係者評価に関する事項	委員会の構成	向坂　正佳（守山市教育委員会教育長）、大崎　裕士（守山商工会議所会頭）、眞下忠（神港精機株式会社代表取締役社長）、亀田晃巖（唯明寺住職）、松浦　博（滋賀医科大学 学長）、高山茂（理工学部学部長）、久野　信之（一貫担当常務理事）、堀井　美津江（立命館守山中学校・高等学校PTA会長）、渋谷成子（立命館守山早苗会相談役）、寺田佳司（校長）
	委員会開催日程 主な議題	第1回：2021年6月9日(水)　10：00～12：20 第2回：新型コロナの影響により予定されていた会議を延期⇒中止
	評価、改善事項	コロナ対応としてのICT活用、探究学習を軸としたキャリア教育などのプログラムに対する高い評価をいただいた。一方、社会性を育む体験的なプログラムの重要性が共有された。